

港区立御成門中学校

平成27年度 授業改善推進プラン

- ◎関係法規
- ◎教育基本法
- ◎都・区教育目標等

教育目標

- ・豊かな心とたくましい体をもつ生徒を育てる
- ・他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒を育てる
- ・自ら計画し進んで学習する生徒を育てる

- ◎学校、地域の実態
- ◎保護者や地域の願い
- ◎期待される生徒像

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

- 言語活動の充実と授業改善
- (1)思考力・表現力等の育成 (2)個に応じた授業の展開 (3)課外における学習時間の確保 (4)読書活動の充実
- ①全教育活動における言語活動の推進
 - ②各種検定、作文、絵画コンクールへの積極的参加
 - ③物語文や漢文、百人一首・俳句等の古典文学の暗唱の推進
 - ④生徒による自己評価・授業評価
 - ⑤数学・理科・英語における少人数集団を活かした指導
 - ⑥各種補習教室の開催と宿題を中核にした家庭学習の推進
 - ⑦リーディングアドバイザーと連携した読書活動
 - ⑧アクティブラーニングを取り入れた授業の推進

各教科の指導の重点を確実に生徒に身につけさせるため次の取組を行います

道徳教育の指導の重点

- ・あらゆる教育活動を通して生命と人権を尊重する精神や思いやりの心を育て、「いじめは人間として絶対に許されない」という認識の定着を図り、相互に信頼し尊重し合う心情や態度を育成する
- ・道徳の時間を中心にすべての教育活動を取り組み、さまざまな体験活動の機会を設けて道徳的実践力を高める
- ・法やきまりの意義を理解し、公正さを重んじる心や自己を他を尊重し生命を大切にすることを育む指導に努める
- ・道徳授業地区公開講座などの活動を推進し、保護者・地域住民と連携して生徒の社会性を育てる

総合的な学習の時間の重点

- ・自ら課題を見付け、考え、そして主体的に解決できる能力を育成するため、3年間を見通した指導を計画的に実施する
- ・学び方やものの考え方を身に付けさせ、将来に渡り学習していこうとする意欲と態度を育む
- ・上級生が下級生にガイダンスや研究発表をすることで、自主性を高め、学び合う力を身に付けさせる

国語	漢字の読み書きについては、練習や小テストを継続的、計画的に行ってきた成果が少しずつ表れてきているので、引き続き継続的、計画的に工を上げていく。「書く」ことについては、字数を指定し、段落の構成を工夫して自分の考えを書かせるような時間を多く設定し、「書く」能力を高めていく。また、練習や小テストで身に付けた漢字を、作文を書くときだけでなく使用して書くように指導していく。漢字検定を年間3回校内で実施し、学習意欲向上のきっかけとして引き続き活用する。
社会	基礎・基本を確実に定着させるとともに、統計データや主題図等の各種資料を読み取り、必要な情報を取捨選択する資料活用の技能や、社会的事象について考察した内容を自分の言葉で発表する思考力・判断力・表現力を育成するため、日常の授業から「読み取る」「読み解く」「探る」「考える」「発表する」学習活動を意図的に実践する。
数学	習熟度別少人数授業の特性を活かし、生徒の学習意欲を高める工夫を多く取り入れながら、個に応じた指導の充実を図り、基礎・基本の定着や発展力の育成に努める。また、できるだけ考える時間を確保し、思考力（数学的な見方・考え方の能力）を高めていくとともに、筋道を立てて考えたり発表させたりする場面を意図的・計画的に増やし「言語活動の充実」を図る。数学検定を年2回校内で実施し、学習意欲の向上を図る。
理科	学習内容と日常生活の関連を調べ学習や話し合い活動を通して気づかせ、思考力・応用力の向上を図る。少人数授業を活かし実験・観察の個別化を進め、各自が操作する機会を増やすことで、意欲と技能の向上を図る。ICT機器を活用して効率的・反復的に学習を進め、学習内容の定着を図る。
音楽	音楽活動の基礎となる表現力を習得させると同時に、活動の中に言語活動を取り入れ、思いを伝える表現を工夫させる。鑑賞に限らず幅広い活動の中で多様な価値観に触れる機会をつくり、自分の思いを表現する支援をしていく。合唱ではパートリーダーを中心に生徒が主体的に活動できる授業を目指していく。音楽を愛好する心情や感性を身につけさせ、豊かな情操を養わせる。
美術	発想を形にできるような、幅広い創作活動を通して基礎的な技能を身に付けさせる。適宜参考作品や規準を提示し、作品の完成度を上げたり完成を見極めたりする力を養う。また、鑑賞を通して、自他の作品のよさや求められる技術は何なのかを考えさせる。制作の記録を取りながら個に応じた指導を継続して行い、達成感や表現する楽しさを感じ取れるようにする。
保健体育	どの種目に対しても意欲的に取り組むことができる。また、授業規律を遵守する態度が身につけてきている。課題は、体力の低下である。そのため、生徒の運動量を確保するため、補強運動の実施や主運動の効率化を図る。また、保健分野と関連を図り、自分の体力に興味をもたせ、日常的に運動しようとする意欲を高めえいく。
技術	作品の製作に向けた意欲は高まってきているが、工具の使用や製作の知識にはまだ興味・関心が薄い。学習全体を通して「ものづくり」を重視した授業を行い、根気よく作品を製作する力を身につけるとともに、視具や工作機械を安全で適切に使用し、自らの生活に必要な技能を習得させ、より良い作品作りを通して自らの生活を工夫・改善する意欲を向上させたい。
家庭	苦手意識の高い分野では、自信をもって取り組めるように繰り返しの学習によって技能を身に付けさせる。実践的な内容を多く取り入れることによって、家庭生活を工夫し、改善していこうとする意欲を向上させる。
英語	①「評価プリント」（単元ごと）既習の単語、文法事項の理解力を確認する。 ②「自己表現」（定期テスト）事前に準備した英文で書くことで、表現力をつける。 ③「スپرキングテスト」（長期休業明け）既習の語彙力を定着させる。 ④「長文ドリル」（授業内）まとまった英文を限られた時間内で読むトレーニングを行い読解力をつける。

生活指導の重点

- ・生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ学校生活を送るうえで規律ある生活を送ろうとする規範意識を育成する
- ・一人一人の生徒理解に努め、よさを認め、励ます一方、生徒の悩みに対応できるように教育相談機能を充実させる
- ・不登校の問題に対しては、スクールカウンセラーや適応指導教室などと連携して組織的に対応する
- ・不審者侵入避難訓練や防災訓練など外部の専門機関と連携した体験的・系統的な安全教育及び防災教育を通して、生徒の危機管理能力を育成する
- ・ネット犯罪に対しセーフティ教室などを通して、被害の未然防止に努めるとともに情報モラルを身に付けさせる
- ・地域行事やPTA行事などのボランティア活動に積極的に参加させ、地域ぐるみで生徒の健全育成にあたる体制づくりを推進する

進路指導の重点

- ・3年間を見通した計画のもとに、自己理解を深め、キャリアについて考え、主体的に進路を選択する能力と態度を育て、生涯を通じて学び続ける意欲を培う
- ・職業調べや職場体験などを実施することにより、実体験を通して、自己のキャリアについての考えを深めさせる

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○週時数30.5コマの実施（第1・第3土曜日の授業実施） ○朝読書の全校実施 ○道徳授業の確保 ○3日間の職場体験実施 ○食育に関する指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○数、理、英での少人数授業の実施 ○英検・漢検・数検の校内実施 ○生徒による授業意識調査 ○年間30時間以上の補充教室の実施（全学年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年ごとの評価評定法冊子の作成と配布 ○評価評定保護者全体説明会の実施 ○定期的な教科部会の実施 ○学力調査結果の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の推進 ○個別指導計画の作成 ○学習支援員との連携 ○ICTを取り入れた研究授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と連携して農業体験や身近な街のコンサートを実施 ○平和まつり、みなとキャンプ村の参加、協力 ○外部ダンス指導員によるダンス授業の実施